



THE SERVICE CLUB OF THE YMCA  
 AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y' S MEN' S CLUB

# The Y's Men's Club of Kanazawa

CHARTERED JULY 9, 1947

c/o KANAZAWA YMCA 44-1-201 SATOMI-CHO KANAZAWA 920-0998 JAPAN

国際会長主題	「私たちは変えられる」 “Yes,we can change.”
アジア地域会長主題	「アクション」 “Action”
西日本区理事主題	「未来に残すべきものを守り育てる」 “Let's Protect and Cultivate What Should Be Passed on to the Future.”
中部部長主題	「ワイズ総活躍中部」
金沢クラブ会長主題	「語り合おう 伝え合おう 楽しいワイズライフを」

## 2019 3 月間強調

## J W F

### 今月の聖句 (朝倉みゆきさん)

あなたがたの一人一人が、心から兄弟を赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに同じようになさるであろう。

マタイによる福音書 18章35節

### 3月強調月間

JWFは皆様の厚意によって支えられています。個人やクラブの記念に合せて献金をお願いします！

西野陽一 JWF管理委員長

(大阪高槻クラブ)

### 3月例会 プログラム

と き	2019年3月21日 (Thu.) 18:30~20:30
と ころ	金沢ニューグランドホテル
会 費	¥3,000 (会員は無料) ¥2,000 (メット)
	司会 西 信 之 君
開 会 ・ 点 鐘	幸正一誠会長
主 題	司 会 者
ワ イ ズ ソ ン グ	一 同
今 月 の 聖 句	朝倉みゆきさん
ハ ッ ピ ー バ ー ス テ ー イ	幸正一誠会長
食 前 の 感 謝	朝倉みゆきさん
ス ピ ー チ	松田 通則氏
	“今まで そして これから”
委 員 会 報 告	各 委 員
ニ コ ニ コ タ イ ム	数澤輝夫君
Y M C A の 歌	一 同
閉 会 ・ 点 鐘	幸正一誠会長

### 2月 クラブ活動状況

#### 第1例会 (2月21日 Thu.)

メ ン :	朝倉、伊藤、数澤、幸正、山内	(5名)
功労会員 :	澁谷	(1名)
出席率	100%	充足率 167%
メネット :	伊藤、数澤	(2名)
ゲスト :	澁谷、吉川	(2名)

#### 第2例会 (2月1日 Fri.)

メ ン :	朝倉、伊藤、数澤、幸正、山内	(5名)
メネット :	数澤、朝倉	(2名)

#### ニコニコタイム

クラブファンド 累計 14,000円

#### B F ポ イ ン ト

切手	845 g	累計	1,535 g
現金	0 円	累計	0 円

会 長	幸正一誠	書 記	西 信之
副 会 長	数澤輝夫		山内ミハル
	伊藤仁信	会 計	朝倉みゆき
		メット会長	数澤淑子

第一例会 : 毎月第三木曜日 18:30~20:30  
 金沢ニューグランドホテル Tel (076)233-1311  
 第二例会 : 毎月1日 18:30~20:00  
 金沢ニューグランドホテル 2F (トレド)

## とやまワイズメンズクラブ設立総会

伊藤 仁信

2019年2月10日(日)に北陸の地に待望のワイズメンズクラブの設立総会がもたれました。「とやまワイズメンズクラブ」です。当日富山市のとやま自遊館にて開催され、西日本区遠藤理事、戸所次期理事、大野直前理事、小野 EMC 事業主任、柴田中部部長、山内ミハル直前中部部長などが列席されました。またとやまワイズメンズクラブ設立の関係者として清水準備委員長ほか15名とスポンサークラブから幸正会長ほか5名が参加いたしました。そのほか名古屋、東海、四日市、グランパス、長浜、彦根、京都トップス、大阪泉北、熊本ジェーンズ、富山 YMCA など多くの方々のご参加を頂きました。

総会は午後4時から、司会はチャーターメンバーの一人である島田茂氏が担当し、金沢クラブ幸正一誠会長の開会宣言と点鐘で開会いたしました。続いて開会礼拝が田口牧師のもとに行われ開会式の準備が整い総会が始まりました。

最初に清水淳設立準備委員長から設立の主旨と経過が述べられました。続いて幸正一誠スポンサークラブ会長から中部北陸地区クラブの現状と富山でのクラブの必要性が話され、特に山内ミハル直前中部部長は富山クラブの設立を重要な活動の一つとして運動してまいりました。設立に直接関わったチャーターメンバーの方々は何論のこと、遠藤理事をはじめ関係各部・クラブの方々のお力添えを頂いたからこそ、今日このような日を持つことができたのではないかと話されました。



次に議事に入り幸正一誠金沢クラブ会長が議長に選出され1～3号議案とも満場一致で可決されクラブ会則の承認と役員として会長清水淳君、副会長中島完一君、会計松浦正樹君、書記島田茂君が選出されました。最後に富山 YMCA 理事長水野績氏と西日本区理事遠藤通寛氏より祝辞を頂き、無事「とやまワイズメンズクラブ」の設立となりました。最後に富山 YMAC の活動、

感謝の歌、決意表明(清水会長)などがあり閉会点鐘、記念写真と進み総会は無事終了しました。多くの方々のご参加ご協力いただいたことに改めて心から感謝申し上げます。

なお、チャーターナイトは2019年5月11日(土)の予定です。多くの方々のご参加下さることをご期待いたしております。

### 松田 通則氏 プロフィール

1954年生まれ 東京都出身

1979年 日本大学理工学部建築学科卒業

富山市の設計事務所に勤務

1981年 東京で東急設計コンサルタント勤務

1989年 再び富山市へ移住

1998年 (有)池田建築設計事務所

2000年 NPO法人とやまの木で家を作る会 設立

(地域の木を活用して環境保護)

富山YMCAとのお付き合い始まる

2000年 富山県民の翼事業でオランダ・デンマーク

へ

2018年 建築士会ヘリテージネットワークとやま設立

## 2月例会「使用済み切手の整理」

数澤 輝夫

金沢ニューグランドホテルの例会会場に入るなり、朝倉みゆきさんの席に行列が出来ていました。会費とCS・BF献金の納入の順番です。吾輩も列に加わり納入を済ませて、開会の前に小用のため廊下へ出ると、他の会場では若者たちがぞろぞろ集まっていた。その中に3名の芸妓さんが吸い込まれて行くのに出くわしました。久しぶりに目の保養をしました。

ワイズの会場では司会者の山内ミハルさんが時間を気にしている様子です。朝倉みゆきさんも職務全うのため必死の面持ちです。定刻になり、幸正一誠会長の開会宣言と点鐘が高らかに響きました。司会者がプログラムに従っていつものセレモニーが進められました。2月生まれの方がいなくてハッピーバースデーはできませんでした。

当日は先に案内があったとおり、「ピンクシャツデー」としてメンバー全員がピンクのTシャツを着て例会に臨みました。ピンクがよく似合う人、それなりに着こなしている人、初めてなのでどう着こなしたらいいか戸惑っている人とさまざまです。山内メンから「ピンクシャツデー」についての説明があり、改めてその意義を確認しました。みんなが一つ思いになり、ピンクシャツの趣旨である「いじめ反対」運

動に参加している意義を考えたひと時でした。いじめ問題は身近な家庭、学校から、社会、世界中でも深刻な問題です。弱者であるいじめられている人との連帯感、寄り添う気持ちを大切にしたいものです。



食後は久しぶりに「使用済み切手の整理」を行いました。始めに新聞紙と使用済み切手を一人ひとりに配布して、BF 担当の数澤メンが切手の切り方等について説明を行いました。

①切手の回りを5mm程の余白を付けて切ること。(余白が小さいと切手の目打ちを切り込んでキズ切手にしてしまう可能性があるので注意)

②複数の切手が貼ってある場合も、切手全部に沿って5mm幅で切り取ること。

③外国切手は別に分けること。



作業中に色々と面白い質問もありました。丸い切手は丸く切るのか、四角く切るのか、複数貼ってある切手の一枚が破れているのはどうするのかなど、時間までみんなまじめに作業に取り組んでいました。作業しながら話に花が咲き、楽しく切手整理を行うことが出来ました。きれいに整理された切手は来年度に送ることにしました。今回整理された切手は845gでした。今までの累計690gとで、BFポイント累計は1,535gになりました。皆さんご苦労様でした。

## スキー教室に参加して

朝倉みゆき

2019年2月16日(土)、「朝早くお電話してすみません。今日雨ですがスキーありますか?」参加の父兄からの電話でした。「はい!有ります。山は雪と思います…」

今年の集合場所は北陸学院大学国際交流センター前で時間は午前8時でした。雨の中を次々と参加者が集まってきました。学院のマイクロバスもセンター前に到着しました。見送りに手を振ってバスは山に向かいました。



バスに乗り込んだのは小学二年生7名、三年生2名、六年生2名、バスの運転手さん、YMCA理事長、朝倉みゆきの14名です。「あと何分?」「まだ着かんの?」そう言いながら、しりとり始める子。「寝る!」と言ったと思ったらスースー寝ている子。トンネルを幾つか通り「着いた!」誰かが嬉しそうな声をあげた。

毎年お世話になっている小桜荘の駐車場にバスは止まりました。指導をしてくださる宮本コーチと参加者の父兄1名が笑顔で迎えて下さいました。「おはようございます」子供達それぞれが上手にごあいさつしていました。「それではこちらに集まりましょう。準備体操から始めます」宮本コーチの掛け声で体操が進められました。「ではスキーを付けてどのくらいの腕前か見せてもらいます」次々と順に見てもらっていると「家に帰りたい!ワァーワァー」と大きな声で泣いて雪の上に大の字になっている。するとコーチ「雪の上では自分でするしかないぞ!」そう言われてムックと起き上がった子は「ちょっとここ押して!」と私に頼みました。するとコーチに続いてリフトの列に進んで行きました。『今それぞれ見せてもらった2年生と3年生は4人乗りリフトで上り、この幅の広いゲレンデをゆっくり滑りましょう。6年生2人は父兄と3人

でお願いします」と指導がありました。私がひやひやしながら4人乗りのリフトを見ると、次々上手に腰かけて、乗り込んでいました。

ゲレンデに立つと、「ハの字にスキーを保つようにハ！ハ！ハ！」とコーチの声。さっき大の字になって、泣いていた子が先頭を切って滑り出しました。「うまい！！」と私は声を上げました。

午前中はリフトで3回上り、ゲレンデを楽しく声を掛け合って滑りました。11時半に小桜荘に集まり、岩間山荘で昼食を取りました。カレーと焼きそば、おにぎりを食べた子もいました。お茶とお菓子も食べました。午後もゲレンデに戻り、スキーを楽しみました。三小牛に着いたのは16時50分頃でした。お迎えの保護者と子どもたちはスキーの話を楽しんで帰って行きました。

## ~~~~~お知らせ~~~~~

### ☆献金について

西日本区へ送金のため下記の献金を集めます。3月例会にお持ちください。

Yサ 2,000円

YES 500円

Happy Birthday

数澤淑子さん

3月4日

### 4月の担当

聖句担当：伊藤仁信君

ブリテン執筆：西 信之君

伊藤悦子さん



## メ ネット 報



### 『この頃思い出すこと』

外国語学習のことを思い出すと、先ず英語のことだった。中学で習った教科書は *Jack and Betty* という名前前で *British Style* だった。Do you have a pen? ではなくて、Have you a pen? だった。少し混乱したのを覚えている。

教えている日本人の先生は、アメリカの発音だった。そして、nativeの先生もアメリカ人だった。中学生の頃、Bible Class があり、アメリカから来た宣教師に習った。今でも覚えているのは、Truly, truly I say unto you. (まことに、まことに、汝らに告ぐ) という類いのものだった。1611年版のいわゆる『欽定英訳聖書』*The Authorized Version of the Bible* である。そのことは、後で知った。

次に学んだのはフランス語で、モーパッサンを読んだ。まったく歯が立たなかった。しかし、テレビでモレシャンさんの番組を見ていた。そこではフランス語で歌を覚えた。今でも2曲だけ歌える。

それから、ドイツ語は独学で学んだ。これもものにならなかった。それからロシア語。これも独学で、ドストエフスキーを読むんだと意気込んでいたが、何んにもならなかった。今は使われないという「さようなら、同志よ」(ダスビダーニャ、タバーリツシュ) は覚えている。

それから、タイに行くことになり、タイ語を学んだ。それと韓国語も必要に迫られて学んだ。どれもこれもものにならなかった。

でも外国語学習はそれをしている時が楽しい。それで思い出したのは、タイでタイ語しかできない人と二人だけになった時の経験を思い出す。タイ語を学んだと言っても話ができないので、英語を使ってコミュニケーションを取ろうとするが、相手は英語を解さない。気まずい沈黙があり、どうしてこの場を過ごそうか、と思いながらただ笑っているだけだった。

英語学習については、長く英語を子供たちや大人に教えてきた経験もあるので、少し自信はあるが、学習することに終わりはない。

現在もNHKのラジオ番組『ラジオ英会話』、『実践ビジネス英語』、『遠山頭の英会話』のテキストを購読し、学んでいる。知っていることでも新しい発見がある。

私たち日本人は失敗することをとても気にする。私が英語を教えるときに、必ず伝えるフレーズがある。Don't be afraid of making mistakes. (間違いをすることを恐れるな)

ある授業の時、アメリカから来たお客さんが私の授業参観に来てくれた。私はいつものように、Japanese people are afraid of making mistakes in English. と説明していたら、手を挙げて「アメリカ人も失敗するのは嫌なんですよ」と言った。

(朝倉 秀之 記)